

令和6年度全国学力・学習状況調査の結果の概要について

1 調査の概要

(1) 調査の目的

- ・義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ・そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 調査の対象学校・対象学年

- ① 美濃加茂市内公立学校(組合立学校を含む)[小学校9校、中学校3校]
- ② 小学校第6学年、中学校第3学年

(3) 調査内容

- ① 教科に関する調査[小学校:国語、算数、中学校:国語、数学]
- ② 生活習慣や学習環境等に関する質問調査

(4) 調査実施日

令和6年4月18日(木)

2 美濃加茂市における調査結果の概要

(1) 教科に関する調査結果の分析の概要

- 小学校は、国語・算数とも全国平均正答率を下回っています。中学校は、国語・数学とも全国平均正答率をやや下回っています。
- 調査問題別に本市と全国の平均正答率を比較すると、小学校・中学校ともに、よくできている調査問題と課題となる調査問題の傾向はほぼ一致しています。

【国語】

- 小学校では、目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、伝え合う内容を検討することができます。また、情報と情報との関連付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができます。
- 小学校では、人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることに課題があります。また、目的や意図に応じて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに課題があります。
- 中学校では、話し合いの話題や展開を捉えながら、他者の発言と結び付けて自分の考えをまとめることができます。また、必要に応じて質問しながら話の内容を捉えることができます。
- 中学校では、具体と抽象など情報と情報との関係について理解することに課題があります。また、文の成分の順序や照応について理解することに課題があります。
- 小学校・中学校ともに、既習の漢字を文の中で正しく使うことに課題があります。

⇒課題解決への手立て

- 情報の関係を様々な方法で整理する活動を意図的に位置付けることで、「情報と情報の関係を理解する力・内容を整理して必要な情報を見付ける力」を育む。

【算数・数学】

- 小学校では、直方体の見取図について理解し、かくことができます。また、簡単な二次元の表を読み取り、必要なデータを取り出して分類整理することができます。
- 小学校では、直径の長さや円周の長さ、円周率の関係について理解することに課題があります。また、示された情報を基に、必要な数値を読み取って条件に当てはまることを説明することに課題があります。
- 中学校では、グラフの傾きや交点の意味を事象に即して解釈することができます。また、問題場面における考察の対象を捉え、正の数と負の数の加法の計算ができています。
- 中学校では、与えられたデータから最頻値を求めることに課題があります。また、連続する二つの偶

数を、文字を用いて式で表すことに課題があります。

- 小学校・中学校ともに、問題解決の方法、判断の理由、事柄が成り立つ理由を数学的に説明することに課題があります。

⇒課題解決への手立て

- 「根拠を問う」「解釈する」「統合する」「発展する」問いを促すことで、確かな知識や技能の定着を図る。

(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問調査結果の分析の概要

- 「学校に行くのが楽しいと思う」と回答した児童生徒の割合は、小学校・中学校ともに全国平均よりも高い傾向にあります。各学校において、第2次美濃加茂市教育振興基本計画のキーワードである「学校が楽しい！」と言える特色ある教育活動、児童生徒の課題等に合わせて必要な教育活動が推進されていることが分かります。
- 「先生は、よいところを認めてくれている」「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」と回答した児童生徒の割合は、小学校・中学校ともに全国平均よりも高い傾向にあります。頼れる存在があることの安心感や、教育センターと連携した相談活動の充実、SOSの出し方に関する教育の推進等が、児童生徒に肯定的な影響を及ぼしていることが分かります。
- 「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」「人が困っているときには、進んで助けている」と回答した児童生徒の割合は、小学校・中学校ともに全国平均よりも高い傾向にあると共に、「学級生活をよりよくするために学級会(学級活動)で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている」と回答した児童生徒の割合は、小学校・中学校ともに昨年度よりも高まっています。他者との関わり方を大切にしたい居場所づくり・集団づくりが進められていることが分かります。
- 「人の役に立つ人間になりたいと思う」と回答した児童生徒の割合は95%を超えると共に、「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」と回答した児童生徒の割合は、小学校・中学校ともに昨年度よりも高まっています。美濃加茂市の自然・歴史・文化・施設、そして街に生きる人々の生き様を通した、社会とのつながりを感じる学習が推進されている成果と考えます。
- 「将来の夢や目標を持っている」と回答した児童生徒の割合は、小学校・中学校ともに全国平均よりも低い傾向にあると共に、昨年度までと同程度の割合で推移しています。社会とのつながりを感じる学習において、自分の生き方を見つめる機会を設定し、可能性を信じ、将来の夢や目標につなげられるようにしていきます。
- 各教科を学ぶ意義を感じている児童生徒の割合は、小学校・中学校ともに高く、ほぼ全国平均並です。しかし、各教科の学びに対する意欲や関心が低く、このことは学力調査の結果にもつながっていると考えます。つまづきながら試行錯誤し、学習した知識・技能等を上手く活用して自ら問題を解決したときに得られる「なるほど、そうか。分かった、できた。」を実感できるよう、児童生徒の目線に立って指導改善を推進していきます。
- PC・タブレット等のICT機器の活用頻度は、小学校・中学校ともに全国平均よりも低い傾向にあると共に、小学校においては、昨年度よりも低くなっています。自分で調べる場面、意見を交換する場面、考えをまとめたり発表したりする場面等、学習活動におけるICT機器の活用に対して、児童生徒は有効性を感じており、ICT機器をこれまでの授業実践と最適に組み合わせて活用する取組を推進していきます。
- 「学校での授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日まで)、1日当たり2時間以上勉強をする」と回答した児童生徒の割合は、小学校・中学校ともに全国平均よりも低い傾向にあります。また、ここ3年間の経年比較をみると、1日当たりの家庭学習時間について、2時間以上の児童生徒が減少している実態が分かりました。帰宅後の時間の使い方について、知識・技能等の定着を図るための機会を設けるなどの働きかけをしていきます。

3 全国学力・学習状況調査の活用について

- ◆本市の学力・学習状況等をまとめた指導改善資料を作成・配付する。
- ◆各小中学校において、校長のリーダーシップの下、全教職員が協力し合って、自校の学力・学習状況の実態を把握し、改善方策を検討し、指導を改善する。
- ◆自己肯定感を高める生活の充実を図るとともに、仲間と認め合い、共に考えを深め合う学習集団の育成を行うなど、児童生徒の学習の充実に向けた支援を行う。